

令和4年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

東海道遺跡 (第3地点)

鳴神山遺跡 (第6地点)

油免遺跡 (第5地点)

グミ作遺跡 (第3地点)

鳴神山遺跡 (第7地点)

向新田遺跡 (第5地点)

打手第1遺跡 (第2地点)

安楽遺跡

瀬戸大畑遺跡 (第4地点)

瀬戸大畑遺跡 (第5地点)

2024

印西市教育委員会

令和4年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

東海道遺跡 (第3地点)

鳴神山遺跡 (第6地点)

油免遺跡 (第5地点)

グミ作遺跡 (第3地点)

鳴神山遺跡 (第7地点)

向新田遺跡 (第5地点)

打手第1遺跡 (第2地点)

安楽遺跡

瀬戸大畑遺跡 (第4地点)

瀬戸大畑遺跡 (第5地点)

2024

印西市教育委員会

例 言

1. 本書は、令和4年度国庫補助を受けて実施した、東海道遺跡（第3地点）、鳴神山遺跡（第6地点）、油免遺跡（第5地点）、グミ作遺跡（第3地点）、鳴神山遺跡（第7地点）、向新田遺跡（第5地点）、打手第1遺跡（第2地点）、安楽遺跡、瀬戸大畑遺跡（第4地点）、瀬戸大畑遺跡（第5地点）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は印西市教育委員会が令和4年度に実施し、整理作業と原稿執筆は印西市より委託を受けた公益財団法人印旛郡市文化財センターが実施した。
3. 調査組織は以下の通りである。

●発掘調査（令和4年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	鈴木 圭一	印西市教育委員会教育部生涯学習課長
	石川 美智代	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係長
	海老原 康人	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査
	染谷 豊	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査補
	飯島 伸一	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査補
	根本 岳史	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主任学芸員
	今本 昂佑	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主任主事

●整理作業・原稿執筆（令和5年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	飯島 正義	印西市教育委員会教育部生涯学習課長
	菅谷 幸司	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係長
	伊井 美佐子	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査
	海老原 康人	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査
	染谷 豊	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査補
	飯島 伸一	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査補
	根本 岳史	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主任学芸員
	大間 枝美子	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係学芸員
調査受託者	圓城寺 一雄	公益財団法人印旛郡市文化財センター代表理事
整理担当者	大村 冬樹	公益財団法人印旛郡市文化財センター調査係長

4. (1) 遺跡の所在地、(2) 調査の種類、調査面積、調査期間、(3) 調査担当者、(4) 調査に至る経緯は、以下のとおりである。

東海道遺跡（第3地点）（センターコード：09 - 167）

(1) 印西市松崎字東海道 1352-8、1352-10 (2) 確認調査・上層 58.5/360.66㎡ 令和4年4月11日 (3) 今本昂佑 (4) 個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

鳴神山遺跡（第6地点）（センターコード：09 - 168）

（1）印西市戸神 625 番 1 の一部（2）確認調査・上層 50.75/499.03㎡ 令和 4 年 4 月 18 日（3）今本昂佑（4）集合住宅建設に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

油免遺跡（第5地点）（センターコード：09 - 169）

（1）印西市船尾字油免 1258 番 1 の一部（2）確認調査・上層 46.5/497.57㎡ 令和 4 年 4 月 22 日（3）今本昂佑（4）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

グミ作遺跡（第3地点）（センターコード：09 - 170）

（1）印西市瀬戸字大木台 555 番 29（2）確認調査・上層 31.5/298㎡ 令和 4 年 5 月 10 日（3）今本昂佑（4）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

鳴神山遺跡（第7地点）（センターコード：09 - 171）

（1）印西市戸神字北ノ内 1046 番の一部（2）確認調査・上層 50.2/493.85㎡ 令和 4 年 6 月 2 日（3）今本昂佑（4）店舗建設に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

向新田遺跡（第5地点）（センターコード：09 - 172）

（1）印西市武西字庚塚 1271 番 1 他（2）確認調査・上層 413/5224.35㎡ 令和 4 年 6 月 28 日～令和 4 年 7 月 7 日（3）今本昂佑（4）宅地造成に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

打手第1遺跡（第2地点）（センターコード：09 - 173）

（1）印西市山田 3585-1 他（2）確認調査・上層 54.6/540㎡ 令和 4 年 8 月 25 日（3）今本昂佑（4）太陽光発電施設建設に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

安楽遺跡（センターコード：09 - 174）

（1）印西市別所字安楽 353 番 2 他（2）確認調査・上層 51.1/508㎡ 令和 4 年 8 月 30 日（3）今本昂佑（4）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

瀬戸大畑遺跡（第4地点）（センターコード：09 - 175）

（1）印西市瀬戸字宮作 1100 番（2）確認調査・上層 98/919㎡ 令和 4 年 10 月 24 日（3）今本昂佑（4）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。

瀬戸大畑遺跡（第5地点）（センターコード：09 - 176）

（1）印西市瀬戸字大畑 1135 番の一部（2）確認調査・上層 44/299.15㎡ 令和 4 年 10 月 26 日 本調査 10.6㎡ 令和 4 年 11 月 28 日～令和 4 年 12 月 5 日（3）今本昂佑（4）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第 93 条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、確認調査を行った。










5. 整理作業、報告書原稿並びに印刷製本は、令和 4 年度国庫補助事業及び県費補助事業として実施した。

6. 本書は、大村が執筆及び編集を行った。

7. 本書で使用した写真は、遺構は調査担当者、遺物は有限会社スギハラが撮影した。
8. 調査原因、遺物実測図、写真、出土遺物は、印西市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査から報告書刊行まで、文化庁、千葉県教育庁教育振興部文化財課の指導を受けた。

凡 例

1. 第1、2図は国土地理院発行の地形図(1:25,000)「小林」を使用した。また、第3、6、10、12、15、18、20、23図は「印西市都市計画図」(1:2,500)を使用した。
2. 掲載図面及び遺物の縮尺は、各挿図中に示した。
3. 挿図中の方位は、磁北を示す。
4. トレンチ脇の負数は、現地表面から遺構確認面までの深さ(単位:cm)を示す。
5. 表中の()は推定値、〈 〉は残存値を示している。
6. 挿図中のスクリーントーンの用例は以下の通りである。

	縄文時代住居跡		縄文時代土坑		縄文時代陥穴
	古墳時代住居跡		古墳時代土坑		奈良・平安時代住居跡
	奈良・平安時代土坑		中近世溝		赤彩

本文目次

第1章 周辺の遺跡	1
第2章 東海道遺跡（第3地点）	4
第1節 遺跡の立地	4
第2節 調査の方法	4
第3節 検出した遺構と遺物	4
第3章 鳴神山遺跡（第6地点）	6
第1節 遺跡の立地	6
第2節 調査の方法	6
第3節 検出した遺構と遺物	6
第4章 油免遺跡（第5地点）	6
第1節 遺跡の立地	6
第2節 調査の方法	8
第3節 検出した遺構と遺物	8
第5章 グミ作遺跡（第3地点）	9
第1節 遺跡の立地	9
第2節 調査の方法	9
第3節 検出した遺構と遺物	9
第6章 鳴神山遺跡（第7地点）	11
第1節 遺跡の立地	11
第2節 調査の方法	11
第3節 検出した遺構と遺物	11
第7章 向新田遺跡（第5地点）	12
第1節 遺跡の立地	12
第2節 調査の方法	12
第3節 検出した遺構と遺物	14
第8章 打手第1遺跡（第2地点）	15
第1節 遺跡の立地	15
第2節 調査の方法	15
第3節 検出した遺構と遺物	15
第9章 安楽遺跡	17
第1節 遺跡の立地	17
第2節 調査の方法	17
第3節 検出した遺構と遺物	17
第10章 瀬戸大畑遺跡（第4地点）	20
第1節 遺跡の立地	20

第2節	調査の方法	20
第3節	検出した遺構と遺物	21
第11章	瀬戸大畑遺跡（第5地点）	24
第1節	遺跡の立地	24
第2節	調査の方法	24
第3節	検出した遺構と遺物	26
第12章	まとめ	35

挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺遺跡（瀬戸・山田地区） （1:25,000）	2	第17図	向新田遺跡（第5地点）出土遺物	14
第2図	遺跡の位置と周辺遺跡（武西・船尾・松崎 地区）（1:25,000）	3	第18図	打手第1遺跡（第2地点）位置図（1:2,500）	15
第3図	東海道遺跡（第3地点）位置図（1:2,500）	4	第19図	打手第1遺跡（第2地点）トレンチ配置図	16
第4図	東海道遺跡（第3地点）トレンチ配置図	5	第20図	安楽遺跡位置図（1:2,500）	17
第5図	東海道遺跡（第3地点）出土遺物	5	第21図	安楽遺跡トレンチ配置図	18
第6図	鳴神山遺跡（第6地点・第7地点）位置図 （1:2,500）	6	第22図	安楽遺跡出土遺物	18
第7図	鳴神山遺跡（第6地点）トレンチ配置図	7	第23図	瀬戸大畑遺跡（第4地点・第5地点）位置 図（1:2,500）	20
第8図	鳴神山遺跡（第6地点）出土遺物	7	第24図	瀬戸大畑遺跡（第4地点）トレンチ配置図	21
第9図	油免遺跡（第5地点）位置図（1:2,500）	8	第25図	瀬戸大畑遺跡（第4地点）出土遺物	22
第10図	油免遺跡（第5地点）トレンチ配置図	8	第26図	瀬戸大畑遺跡（第5地点）トレンチ配置図	24
第11図	グミ作遺跡（第3地点）位置図（1:2,500）	9	第27図	瀬戸大畑遺跡（第5地点）確認調査出土遺 物（1）	25
第12図	グミ作遺跡（第3地点）トレンチ配置図	10	第28図	瀬戸大畑遺跡（第5地点）確認調査出土遺 物（2）	26
第13図	グミ作遺跡（第3地点）出土遺物	10	第29図	瀬戸大畑遺跡（第5地点）1号住居跡平面 図・断面図	30
第14図	鳴神山遺跡（第7地点）トレンチ配置図	11	第30図	瀬戸大畑遺跡（第5地点）1号住居跡出土 遺物	31
第15図	向新田遺跡（第5地点）位置図（1:2,500）	12	第31図	瀬戸大畑遺跡（第5地点）遺構外出土遺物	32
第16図	向新田遺跡（第5地点）トレンチ配置図	13			

表目次

第1表 東海道遺跡（第3地点）出土遺物観察表 5	第6表 瀬戸大畑遺跡（第4地点）出土遺物観察表23
第2表 鳴神山遺跡（第6地点）出土遺物観察表 7	第7表 瀬戸大畑遺跡（第5地点）確認調査出土遺物観察表.....27
第3表 グミ作遺跡（第3地点）出土遺物観察表10	第8表 瀬戸大畑遺跡（第5地点）1号住居跡出土遺物観察表.....31
第4表 向新田遺跡（第5地点）出土遺物観察表14	第9表 瀬戸大畑遺跡（第5地点）遺構外出土遺物観察表.....33
第5表 安楽遺跡出土遺物観察表.....19	

写真図版

図版1 東海道遺跡（第3地点）調査前風景（南西から） 3トレンチ（南から） 5トレンチ（南から） 鳴神山遺跡（第6地点） 1トレンチ（東から）	1トレンチ（南から） 2トレンチ（南から） 7トレンチ（東から） 8トレンチ（東から）
図版2 2トレンチ（東から） 3トレンチ（東から） 6トレンチ（東から） 8トレンチ（北から） 調査前風景（南東から）	4トレンチ（東から） 5トレンチ（東から） 10トレンチ（東から） 油免遺跡（第5地点）
図版3 1トレンチ（北から） 4トレンチ（西から） 1トレンチ（北から） グミ作遺跡（第3地点） 1トレンチ（北から） 2トレンチ（北から）	5トレンチ（西から） 6トレンチ（西から） 調査前風景（北東から）
図版4 鳴神山遺跡（第7地点） 1トレンチ（東から） 5トレンチ（東から） 向新田遺跡（第5地点） 1トレンチ（南西から） 2トレンチ（南西から）	4トレンチ（東から） 2トレンチ（東から） 調査前風景（南から）
図版5 7トレンチ（南西から） 19トレンチ（南東から） 打手第1遺跡（第2地点） 2トレンチ（南西から） 4トレンチ（北西から） 7トレンチ（南西から）	20トレンチ（北西から） 安楽遺跡4トレンチ（南東から）
図版6 2トレンチ（北西から） 3トレンチ（北西から） 3トレンチ（西から） 1トレンチ（西から） 瀬戸大畑遺跡（第5地点） 調査前風景（北から）	瀬戸大畑遺跡（第4地点） 2トレンチ（西から） 4トレンチ（西から） 1トレンチ（西から）
図版7 2トレンチ（西から） 4トレンチ（南から） 調査区状況（西から） 調査区状況（南から） 本調査終了時風景（北から）	瀬戸大畑遺跡（第5地点） 本調査重機掘削状況 調査風景（北から） 1号住居跡（南から）
図版8 東海道遺跡（第3地点）出土遺物・鳴神山遺跡（第6地点） 出土遺物・向新田遺跡（第5地点）出土遺物	出土遺物・グミ作遺跡（第3地点） 出土遺物
図版9 安楽遺跡 出土遺物・瀬戸大畑遺跡（第4地点）出土遺物	
図版10 瀬戸大畑遺跡（第5地点）トレンチ（確認調査）出土遺物（1）	
図版11 瀬戸大畑遺跡（第5地点）トレンチ（確認調査）出土遺物（2）	
図版12 瀬戸大畑遺跡（第5地点）1号住居跡出土遺物・瀬戸大畑遺跡（第5地点）遺構外出土遺物	

第1章 周辺の遺跡

印西市は千葉県北部のほぼ中央、茨城県との県境、利根川南岸に位置する。周囲を利根川・印旛沼・手賀沼に囲まれており、これらの湖沼に流入する大小河川により台地両岸が浸食を受け、下総地域特有の複雑な樹枝状台地を形成している。今回報告するのは令和4年度に調査を実施した遺跡のうち10遺跡である。

東海道遺跡(1)は前戸遺跡(9)と近接しており、同一とも考えられる遺跡である。奈良・平安時代の住居跡が16軒検出され、遺物は土師器、須恵器が出土している。さらに北西側には縄文時代早期の船尾貝塚(10)が位置し、本遺跡の東側に位置する松崎V遺跡(11)では縄文時代の炬穴や陥穴状遺構、古墳時代の堅穴住居跡、土坑、溝状遺構などが検出されている。また、西側には古墳時代後期の包蔵地とされる大久保遺跡(12)が位置している。

鳴神山遺跡(2)は北総線の千葉ニュータウン中央駅の南約1kmに位置し、印旛沼の西端に注ぎこむ神崎川支流の戸神川右岸の標高25mの台地上に所在する。奈良・平安時代の遺構としては堅穴住居跡280軒以上、掘立柱建物跡43棟が検出され、墨書土器や搬入土器の瓦などが出土している。北西側に隣接する白井谷奥遺跡(13)で230軒の住居跡、40棟の掘立柱建物跡、村落内寺院が検出されており、この2遺跡が千葉ニュータウンでは最大規模である。

鳴神山遺跡のほか、周辺の向新田遺跡(5)、船尾町田遺跡(14)からは、弥生時代後期から古墳時代前期の堅穴住居跡が検出されている。船尾町田遺跡では前方後円墳と円墳が確認されている。南東の船尾白幡遺跡(15)は旧石器時代から奈良・平安時代にかけての包蔵地・集落跡である。縄文土器は井草・田戸上層・茅山・浮島・興津・加曾利Bと早期・前期・後期の土器が出土している。

油免遺跡(3)からは縄文時代中期の土坑が検出されているが、この遺跡は平安時代の包蔵地として知られている。これまでに第2地点の調査では縄文時代から近世にわたる堅穴住居跡、掘立柱建物跡、堅穴状遺構、土坑、溝状遺構が検出されている。油免遺跡の東側には松崎I遺跡(16)、松崎II遺跡(17)、南側には松崎IV遺跡(18)が所在し、古墳時代前期、後期、奈良・平安時代の集落跡が確認されている。また、北側には中世の船尾城(19)が位置することから、人々の暮らしが継続して営まれていたものとみられる。

グミ作遺跡(4)は西印旛沼の北岸約0.5km、標高約32mの台地上、市城東部の瀬戸・山田地区に所在する。周辺では炭焼1号墳(20)、炭焼2号墳(21)、大木台古墳群(22)などの古墳が点在しているほか、前原第1遺跡(23)からは弥生時代後期の住居跡、前原第2遺跡(24)からは旧石器時代の剥片が出土している。

打手第1遺跡(6)は古墳・奈良・平安時代の包蔵地で、土師器が採集されている。その近隣の打手第2遺跡(25)は平成25年度の印西市の調査で古墳時代堅穴住居跡1軒、奈良・平安時代堅穴住居跡2軒が検出されたほか、遺物は古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器、須恵器などが出土した。遺構外では金銅製耳環が出土した。

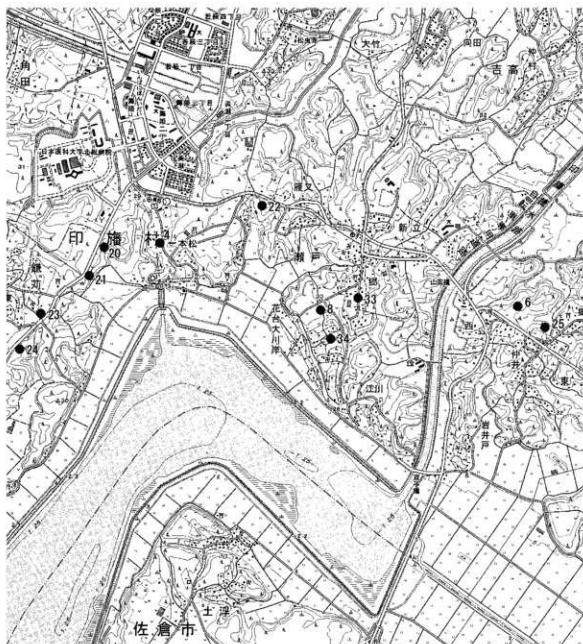
安楽遺跡(7)は縄文時代中期の包蔵地である。西には縄文・弥生の包蔵地の大山遺跡(27)や、南東側に縄文時代中期・後期の包蔵地の別所大山遺跡(26)が位置する。南側の戸神遺跡(28)は縄文時代の包蔵地である。その西側に位置する向新田遺跡からは縄文前期、弥生後期、古墳時代、平安時代、近世の集落跡が検出されている。向新田遺跡の南側台地上には安養寺遺跡(29)が位置し、縄文時代中期と弥生時代の包蔵地である。

中近世では、向新田遺跡が近世の集落及び牧園遺跡である。庚申塔列や土手が残るほか、発掘調査では土坑2基、溝6条が検出されている。中近世の塚としては結縁寺塚群(30)のほかの方墳1基、円墳4基からなる大塚塚群(31)、並塚塚群(32)などの塚の調査がなされている。

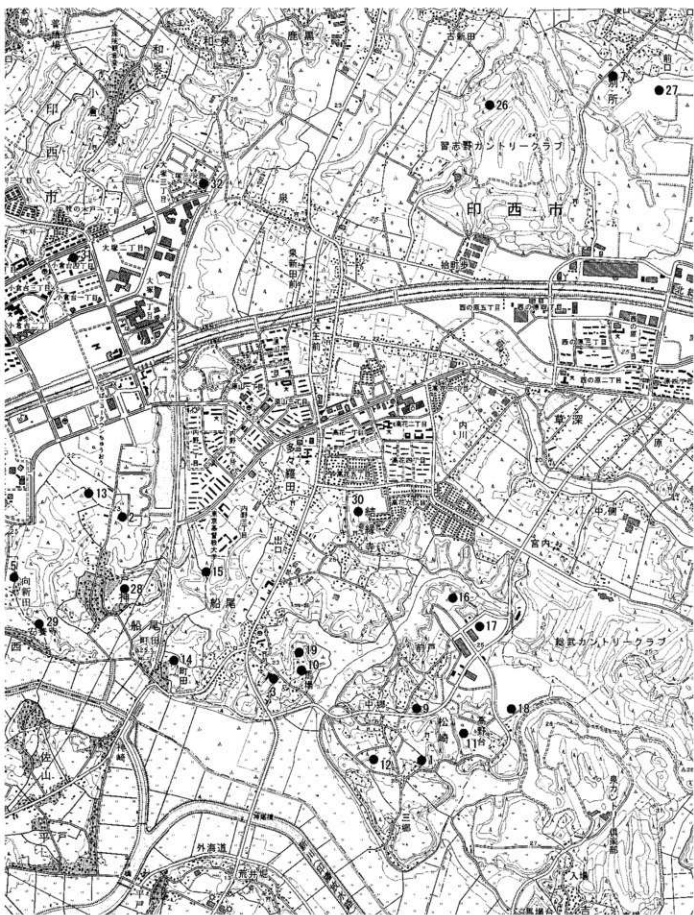
瀬戸大畑遺跡(8)は西印藤沼の北岸から0.5kmほどに位置する標高30mの台地上に立地する。平成25年度の調査では縄文時代竪穴住居跡2軒、ピット2基、古墳時代竪穴住居跡10軒などが検出されており、縄文時代後期、古墳～奈良・平安時代の包蔵地として知られる。遺物は縄文時代後期の土器を主体として、縄文時代石製品、古墳時代土師器などが出土した。その東側の宮畑遺跡(33)、南側の法経堂遺跡(34)も古墳・奈良・平安時代の包蔵地であり、縄文土器のほか土師器と須恵器が出土している。

参考文献

- 岡田誠造・森本和男 2005 『印西市鳴神山遺跡Ⅳ』(財)千葉県文化財センター
 印西市教育委員会 2016 『平成26年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』
 印西市教育委員会 2023 『令和3年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』



第1図 遺跡の位置と周辺遺跡(鎌苅・瀬戸・山田)(1:50,000)



第2図 遺跡の位置と周辺道跡（武西・船尾・松崎地区）（1：50,000）

第2章 東海道遺跡（第3地点）

第1節 遺跡の立地（第3図）

新川東岸から0.9km、標高約25mの台地上に立地する。

第2節 調査の方法

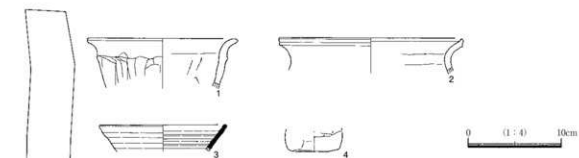
トレンチを任意に8本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/100）を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物（第4・5図、図版1・8）

奈良・平安時代竪穴住居跡が3軒と土坑5基、中近世溝状遺構1条を検出した。遺物は奈良・平安時代土師器甕・須恵器坏のほか、手づくね土器が出土した。



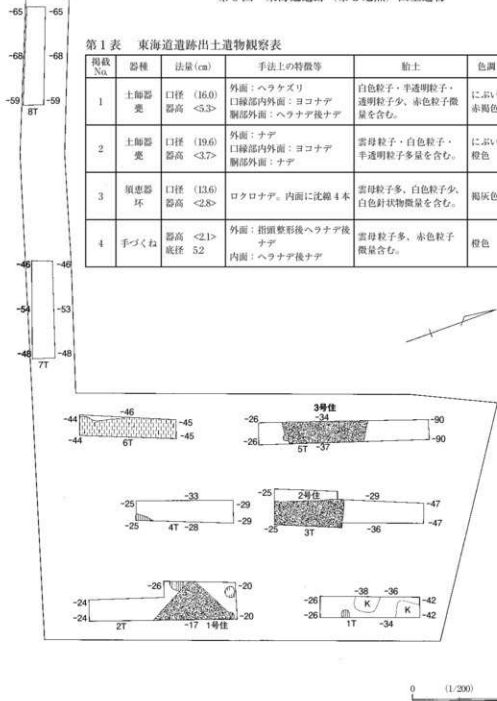
第3図 東海道遺跡（第3地点）位置図（1：2000）



第5図 東海道遺跡（第3地点）出土遺物

第1表 東海道遺跡出土遺物観察表

掲載 No	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	土師器 甕	口径 (16.0) 器高 <5.3>	外面：ヘラケズリ 口縁部内外面：ヨコナデ 胴部外面：ヘラナデ後ナデ	白色粒子・半透明粒子・ 透明粒子少、赤色粒子微 量を含む。	にぶい 赤褐色	良	口縁部 1/4遺存
2	土師器 甕	口径 (19.6) 器高 <3.7>	外面：ナデ 口縁部内外面：ヨコナデ 胴部外面：ナデ	雲母粒子・白色粒子・ 半透明粒子多量を含む。	にぶい 橙色	良	口縁部
3	須恵器 坏	口径 (13.6) 器高 <2.8>	ロクロナデ。内面に沈線 4本	雲母粒子多、白色粒子少、 白色針状物微量を含む。	箱灰色	良	口縁部
4	手づくね	器高 <2.1> 底径 5.2	外面：指頭整形後ヘラナデ後 ナデ 内面：ヘラナデ後ナデ	雲母粒子多、赤色粒子 微量含む。	橙色	良	底部



第4図 東海道遺跡（第3地点）トレンチ配置図

第3章 鳴神山遺跡（第6地点）

第1節 遺跡の立地（第6図）

鳴神山遺跡は印旛沼の北岸、標高24～25mの台地上に立地する。北総線千葉ニュータウン中央駅の南約1kmに位置し、印旛沼の西端に注ぎこむ神崎川の支流、戸神川右岸標高約25mの台地上に所在する遺跡であり、東西300m、南北600m程の平坦な台地上に位置している。

第2節 調査の方法

トレンチを任意に10本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図(縮尺1/100)を作成した。

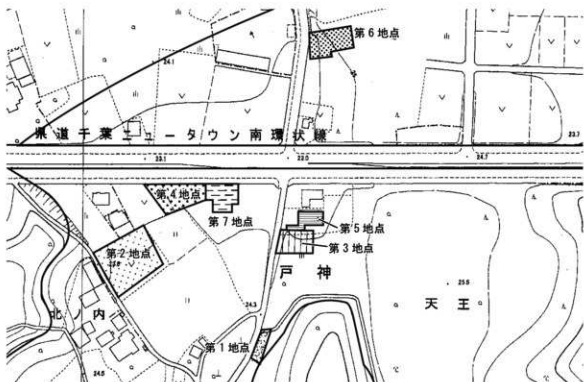
第3節 検出した遺構と遺物（第7・8図、図版1・2・8）

第6地点では調査区西側の大部分が攪乱の影響を受けているが、遺構は奈良・平安時代竪穴住居跡1軒が検出された。遺物は奈良・平安時代土師器鉢と思われる口縁部片と手づくね土器が出土した。

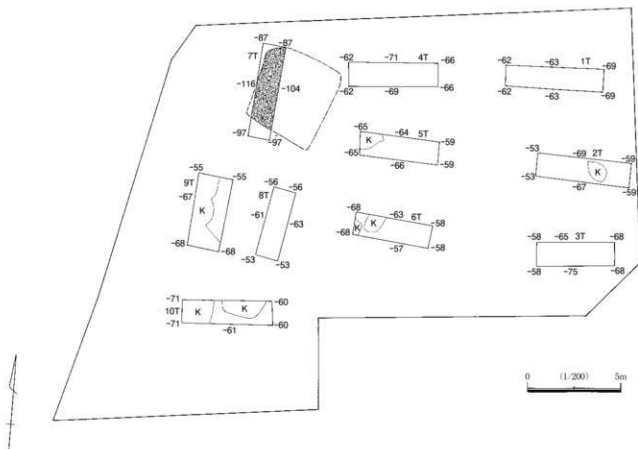
第4章 油免遺跡（第5地点）

第1節 遺跡の立地（第9図）

神崎川東岸から1km、標高約23mの台地上に位置し、北・東・西方を谷津に囲まれ、南側には新川が流れる狭隘な台地上に所在する。



第6図 鳴神山遺跡（第6地点・第7地点）位置図（1：2,500）



第7図 鳴神山遺跡（第6地点）トレンチ配置図



第8図 鳴神山遺跡（第6地点）出土遺物

第2表 鳴神山遺跡出土遺物観察表

掲載No.	器種	法量(cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	土師器 鉢a	-	-	赤色粒子少、白色粒子・白色針状物微量を含む。	黒色	良	口縁部
2	手づくね	口径 (6.2) 器高 3.2 底径 (5.40)	外面：指頭整形後ヘラナデ 内面：ヘラナデ	白色粒子・半透明粒子多、白色針状物微量を含む。	にぶい、橙色	良	1/4 遺存

第2節 調査の方法

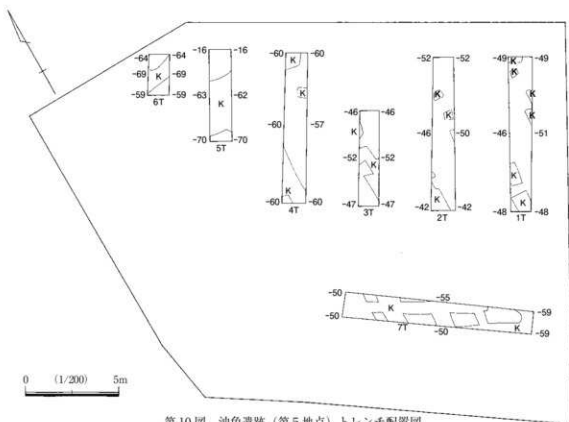
トレンチを任意に7本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界線を基準に平板測量によりトレンチ配置図(縮尺 1/100)を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物(第10図、図版2・3)

調査区の大部分がトレンチャーによる擾乱の影響を受けており、遺構は検出されなかった。遺物は奈良・平安時代土師器と須恵器が出土したが、小片のため図示しうる資料ではなかった。



第9図 油免遺跡(第5地点)位置図(1:2,500)



第10図 油免遺跡(第5地点)トレンチ配置図

第5章 グミ作遺跡（第3地点）

第1節 遺跡の立地（第11図）

本遺跡は市の東部、台地が東の印旛沼に向かって長く伸びる基部付近、西印旛沼から北に約500m入り込む支谷の最深部、印西市瀬戸地区に所在する。付近は開析された小支谷が南北両方向から入り込み、樹枝状の台地を形成している。

第2節 調査の方法

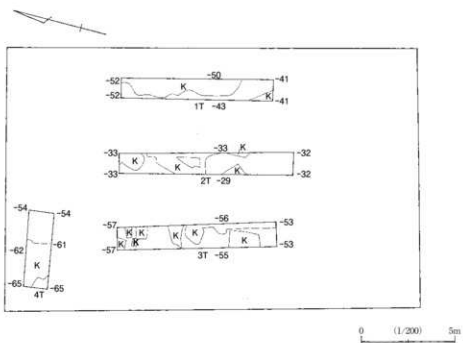
トレンチを任意に4本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺 1/100）を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物（第12・13図、図版3・8）

大部分が擾乱の影響を受けており、遺構は検出されなかった。遺物は縄文時代後期の堀之内式土器の深鉢が出土している。



第11図 グミ作遺跡（第3地点）位置図（1：2,500）



第12図 グミ作遺跡（第3地点）トレンチ配置図



第13図 グミ作遺跡（第3地点）出土遺物

第3表 グミ作遺跡出土遺物観察表

掲載No.	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器 深鉢	-	多載竹管による縦位沈線2条。 地文は単節LR縄文。	白色粒子少・半透明粒子・赤色 粒子微量を含む。	赤褐色	良	胴部 瀬之内式

第6章 鳴神山遺跡（第7地点）

第1節 遺跡の立地（第6図）

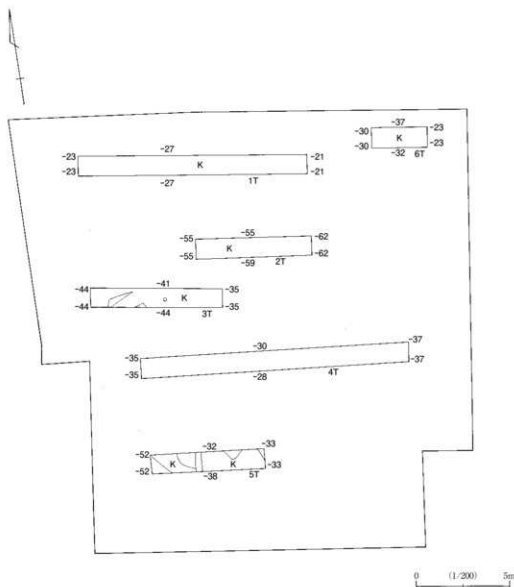
鳴神山遺跡は印旛沼の北岸、標高24～25mの台地上に立地する。北総線千葉ニュータウン中央駅の南約1kmに位置し、印旛沼の西端に注ぎこむ神崎川の支流、戸神川右岸標高約25mの台地上に所在する遺跡であり、東西300m、南北600m程の平坦な台地上に位置している。

第2節 調査の方法

トレンチを任意に6本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/100）を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物（第14図、図版4）

大部分が擾乱の影響を受けており、遺構は検出されなかった。遺物は土師器片が出土しているが、小片のため実測しうる資料ではなかった。



第14図 鳴神山遺跡（第7地点）トレンチ配置図

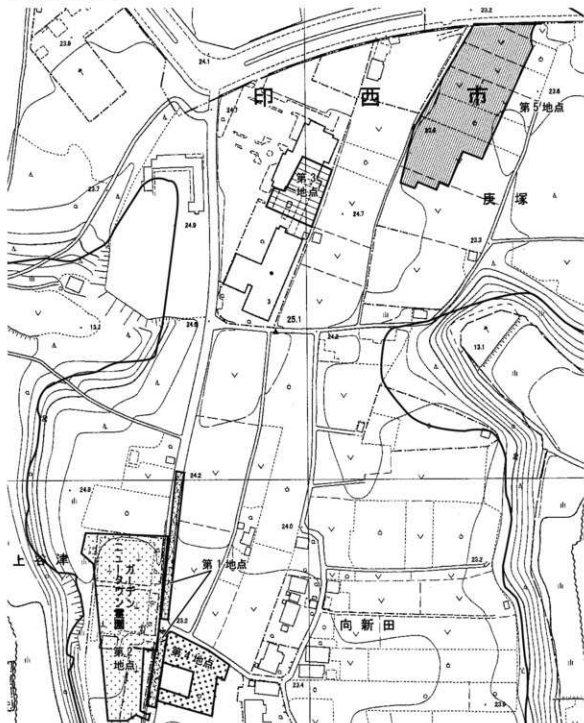
第7章 向新田遺跡（第5地点）

第1節 遺跡の立地（第15図）

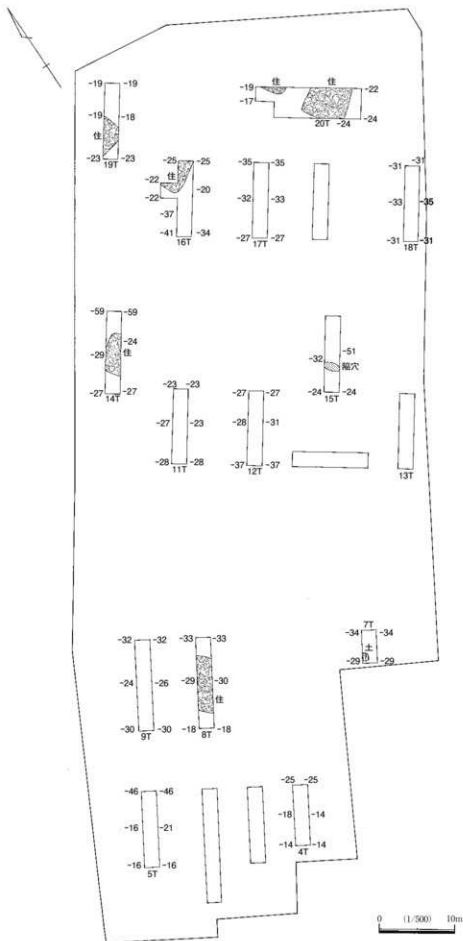
神崎川北岸から約1km、標高約24mの台地上に位置する。千葉ニュータウン中央駅（北総線）から南西約1.5kmに位置し、周辺地形は神崎川とその支流によって開析され、南に張り出す台地の形状を呈する。

第2節 調査の方法

トレンチを任意に19本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/200）を作成した。



第15図 向新田遺跡（第5地点）位置図（1：2,500）



第16図 向新田遺跡（第5地点）トレンチ配置図

第3節 検出した遺構と遺物（第16・17図、図版4・5・8）

縄文時代住居跡1軒、隔し穴1基、古墳時代前期住居跡5軒、土坑1基が検出された。遺物は弥生土器後期の台付甕のほか古墳時代前期土師器の甕や器台が出土している。



第17図 向新田遺跡（第5地点）出土遺物

第4表 向新田遺跡出土遺物観察表

掲載No.	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	弥生土器 台付甕	器高 <2.6> 台部径 (8.2)	外面：RL 単節斜縄文	白色粒子多、透明粒子少、 赤色粒子微量を含む。	灰褐色	良	底部
2	土師器 器台	器高 <2.4> 台部径 (7.4)	外面：ハケ調整後ヘラナデ 内面：ヘラナデ	白色粒子・透明粒子多、 白色針状物微量を含む。	赤褐色	良	底部 1/4 遺存
3	土師器 甕	-	口縁部外面：ヨコナデ 胴部外 面ヘラナデ 内面：ハケ目調整	白色粒子・半透明粒子少、 赤色粒子・白色針状物微量 を含む。	にぶい赤褐色	良	口縁部
4	土師器 甕	-	外面：ハケ目調整 内面：ヘラナデ	白色粒子・透明粒子多、 白色針状物微量を含む。	黒褐色	良	胴部
5	土師器 器台	器高 <5.7> 台部径 (10.4)	外面：ハケナデ後ナデさらに ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	白色粒子・半透明粒子多、 白色針状物微量を含む。	赤褐色	良	胴部 1/3 遺存
6	土師器 台付甕	器高 <8.4> 台部径 10.4	外面：ヘラケズリ後ハケ目調整 内面：ヘラナデ・ヨコナデ	白色粒子多、透明粒子少、 赤色粒子微量を含む。	にぶい褐色	良	台部
7	土師器 片口鉢	口径 (10.0) 器高 12.0、11.1 底径 5.3	複合口縁。 外面：指頭痕、ヘラナデ後ナデ 内面：ヘラナデ後ナデ	白色粒子・半透明粒子多、 白色針状物微量を含む。	赤褐色	良	2/3 遺存

第8章 打手第1遺跡（第2地点）

第1節 遺跡の立地（第18図）

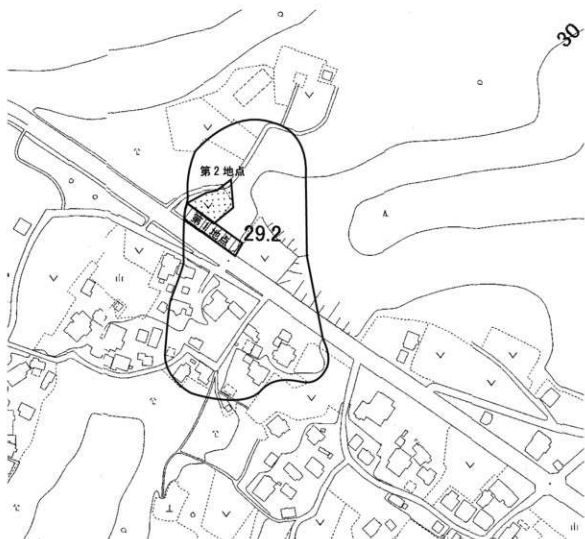
西印旛沼北岸から1.7km、標高約29mの印西市山田地区の台地上に位置する。南北2方向から迫る印旛沼の支谷によって無数の樹枝状台地が形成された中の一つの台地上である。

第2節 調査の方法

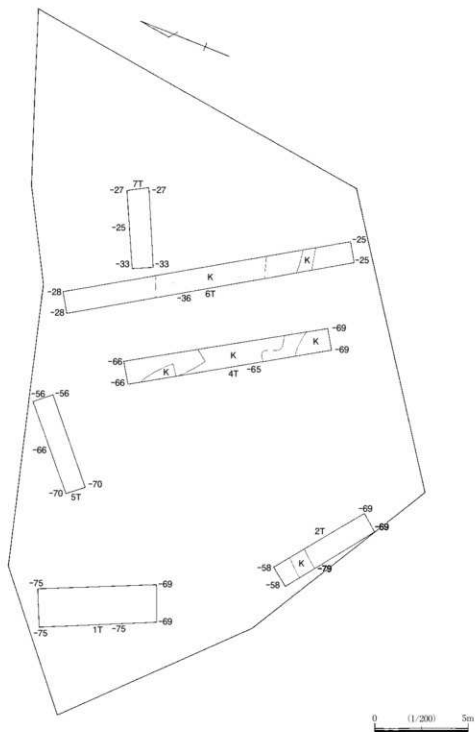
トレンチを任意に6本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/200）を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物（第19図、図版5）

遺構は検出されなかった。遺物は奈良・平安時代土師器と中世陶磁器の破片が出土したが、小片のため図示しうるものではなかった。



第18図 打手第1遺跡（第2地点）位置図（1：2500）



第19図 打手第1遺跡（第2地点）トレンチ配置図

第9章 安楽遺跡

第1節 遺跡の立地（第20図）

亀成川南岸から0.4km、標高約24mの台地上に位置する。

第2節 調査の方法

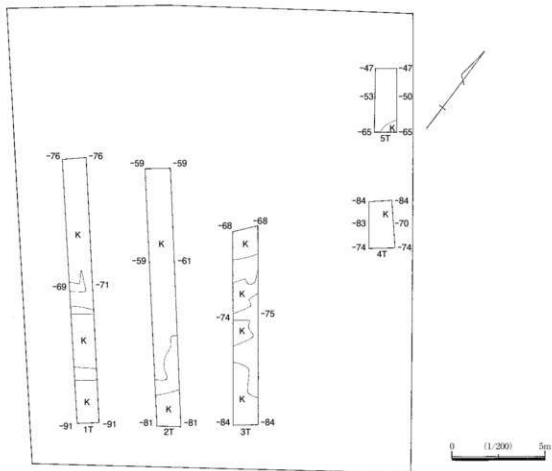
トレンチを任意に5本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺 1/100）を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物（第21・22図、図版5・6・9）

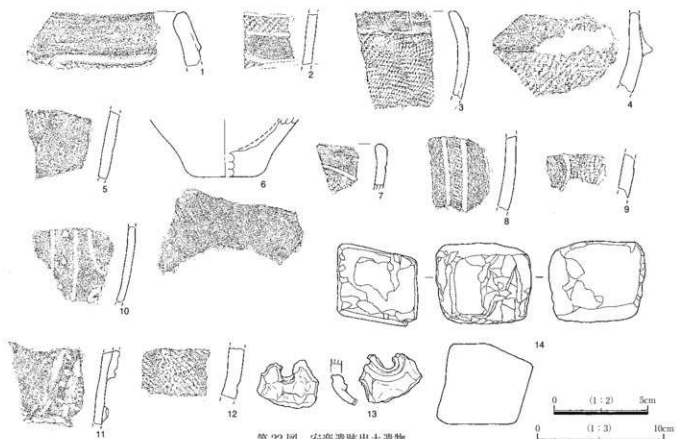
攪乱による影響を広範囲に受けており、遺構は検出されなかった。遺物は縄文時代中期の加曾利EⅢ式、EⅣ式、縄文時代後期の称名寺1式、称名寺2式、堀之内1式の縄文土器深鉢のほか、石製品が出土した。



第20図 安楽遺跡位置図（1：2,500）



第21図 安楽遺跡トレンチ配置図



第22図 安楽遺跡出土遺物

第5表 安楽遺跡出土土物観察表

掲載No.	器種	法量(cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器 深鉢	-	沈線による帯状の区画を有する。区画内に単筋 LR 縄文を施す。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多、赤色粒子少量を含む。	にぶい黄褐色	良	口縁部 加曾利 E III 式
2	縄文土器 深鉢	-	沈線による帯状の区画を有する。区画内に単筋 LR 縄文を施す。区画間は磨消している。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子少量を含む。	暗灰黄色	良	胴部 加曾利 E III 式
3	縄文土器 深鉢	-	縦い波状口縁。口縁部無文帯。胴部横位隆線以下単筋 LR 縄文（一部羽状）。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子少量を含む。	暗褐色	良	口縁部 加曾利 E IV 式
4	縄文土器 深鉢	-	断面三角形の横位隆線帯粘付。口縁部無文帯。胴部以下単筋 LR 縄文（一部羽状）。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多、白色針状物微量を含む。	黄褐色	良	胴部 加曾利 E IV 式
5	縄文土器 深鉢	-	曲線的な微隆線（「U」字状か）。単筋 LR 縄文	白色粒子・半透明粒子多量を含む。	にぶい黄褐色	良	胴部 加曾利 E IV 式
6	縄文土器 深鉢	底径 58 器高 <4.5>	縦位のケズリが顕著。内面潤滑。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多量を含む。	にぶい黄褐色	良	底部 1/2 遺存 加曾利 E IV 式
7	縄文土器 深鉢	-	小突起を付す波状口縁。沈線による幾何学状文の区画内に単筋 LR 縄文を充填する。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子少量を含む。	にぶい褐色	良	口縁部 称名寺 1 式
8	縄文土器 深鉢	-	沈線による帯状の区画を有する。区画内に単筋 LR 縄文を充填する。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子少量を含む。	にぶい黄褐色	良	胴部 称名寺 1 式
9	縄文土器 深鉢	-	幾何学的な帯状文を有する。区画内に単筋 LR 縄文を充填する。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多量を含む。	褐色	良	胴部 称名寺 1 式
10	縄文土器 深鉢	-	沈線による幾何学状文。区画内に刺突を有する。	白色粒子・半透明粒子多量を含む。	にぶい褐色	良	胴部 称名寺 2 式
11	縄文土器 深鉢	-	縦位と横位の顔状沈線を連結させる。口縁部は無文帯	白色粒子・赤色粒子・透明粒子・半透明粒子多、白色針状物微量を含む。	にぶい赤褐色	良	胴部 堀之内 1 式
12	縄文土器 深鉢	-	2条1組の波状沈線。地文は無筋 LR 縄文。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多量を含む。	褐色	良	胴部 堀之内 1 式
13	縄文土器 深鉢	-	環状の突起を有する。透かし孔。胴部に向かって膨らむ土器。外面はヘラ状工具によるナデ調整。内面は透かし孔に沿って沈線を施し、端部に円形竹管による刺突を加える。	白色粒子・半透明粒子多量を含む。	にぶい褐色	良	胴部 堀之内 1 式
14	石製品 砥石	長さ 4.3 × 幅 5.1 × 厚さ 4.3	重量 1518 g	面取りを行っている。石材：チャート。			

第10章 瀬戸大畑遺跡(第4地点)

第1節 遺跡の立地(第23図)

大畑遺跡は利根川と亀成川とに挟まれた東西に長い台地上に位置する。北には利根川から伸びる谷、南には急峻な崖が迫り、台地は幅が狭い。台地の標高は約24mで遺跡の北側は谷津頭となっている。今回の調査地点は遺跡中央のやや北側にあたり、同一台地上の北西には森内古墳、北東約70mには上宿遺跡と近接地には複数の終末期古墳が分布している。

第2節 調査の方法

トレンチを任意に5本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図(縮尺 1/100)を作成した。

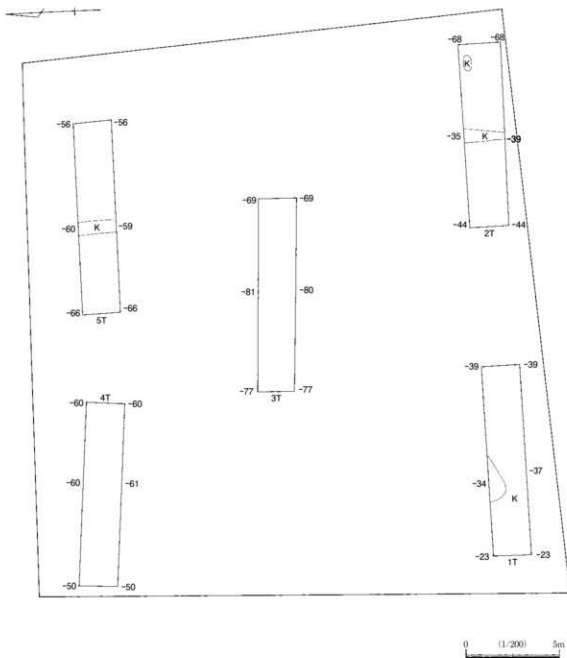


第23図 瀬戸大畑遺跡(第4地点・第5地点)位置図(1:2,500)

第3節 検出した遺構と遺物（第24・25図、図版6・9）

遺構は検出されなかった。

遺物は縄文土器、近世陶器と石製品、鉄製品が出土している。椀形滓が出土していることから、小鍛冶が行われていた可能性がある。縄文時代の時期は堀之内1式から安行式までで、後期の土器が中心である。



第24図 瀬戸大畑遺跡（第4地点）トレンチ配置図



第25図 瀬戸大畑遺跡（第4地点）出土遺物

第6表 瀬戸大畑遺跡（第4地点）出土遺物観察表

掲載No.	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器 深鉢	-	縦位沈線2条、地文は 単筋LR縄文。	白色粒子・赤色粒子・半透明 粒子少量を含む。	褐色	良	胴部 堀之内1式
2	縄文土器 深鉢	-	口唇部外割ぎ状、曲線的な 縦位沈線。	白色粒子・半透明粒子多量 を含む。	橙色	良	口縁部 堀之内式
3	縄文土器 深鉢	-	口唇部に紐縄文、以下 単筋LR縄文。	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	赤褐色	良	口縁部 加曾利B2式 粗製
4	縄文土器 深鉢	-	頸部に紐縄文。口縁部以下 は縦位及び横位沈線。地文に 単筋LR縄文を有すると思われ るが、磨滅のため明確ではない。	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	赤褐色	良	胴部 加曾利B2式
5	縄文土器 深鉢	-	半截竹管管部による肩位 の浅い条線。地文に単筋LR 縄文を有する。	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	黒褐色	良	胴部 加曾利B3式 粗製
6	縄文土器 深鉢	-	括れ部に2条の斜目文を横位。 下端に沈線を沿わせる。胴部に 弧状沈線による区画を有し、 区画内に単筋LR縄文を充填する。	白色粒子・赤色粒子・透明粒 子・半透明粒子多量を含む。	にぶい赤褐色	良	胴部 曾谷式
7	縄文土器 深鉢	-	括れ部に横位斜目文1条。	白色粒子・透明粒子多量を含 む。	黒褐色	良	胴部 曾谷式
8	縄文土器 深鉢	-	口縁部直下と頸部に貼付文を 有する。頸部に矢羽状の細沈 線、弧状沈線を施す。	透明粒子多、白色粒子少、 赤色粒子微量を含む。	にぶい橙色	良	胴部 安行1式
9	縄文土器 深鉢	-	外側に肥厚する。焼成前穿孔 を有する。	白色粒子少、赤色粒子微量 を含む。	にぶい橙色	良	口縁部 後期安行式
10	縄文土器 深鉢	-	口唇部に紐縄文・条線を施す と思われるが、磨滅のため明 確ではない。	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子微量を含む。	にぶい橙色	良	口縁部 後期安行式 粗製
11	土師質土器 枳椇	-	内外面ヘラナデ、ヘラケズリ	雲母粒子多、白色粒子少量 を含む。	にぶい橙色	良	底部
12	陶器 鉢	口径 14.0 器高 4.4 台部径 8.4	口縁部鉄輪、内面底部ナデ	白色粒子微量を含む。	にぶい黄褐色	良	1/2遺存
13	石製品 磨石	長さ<6.4>×幅<4.35>×厚さ<6.2>	重量226g				
14	石製品 砥石	長さ<10.95>×最大幅2.7×厚さ2.6	重量92.1g	4面使用	安山岩		
15	石製品 砥石	長さ<4.9>×最大幅2.4×厚さ1.45	重量29.2g	破片	使用面全面か	安山岩	
16	鉄製品 刀子	長さ<7.0>×幅1.2、0.95×厚さ0.2、0.2	重量8.8g				
17	鉄製品 刀子	長さ<2.9>×幅0.9×厚さ0.2	重量1.8g				
18	鉄 輪形洋	長さ7.0×幅11.6×厚さ3.3	重量191.4g				

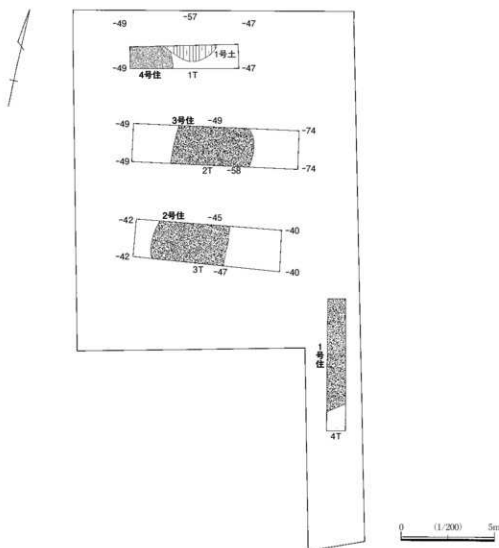
第11章 瀬戸大畑遺跡（第5地点）

第1節 遺跡の立地（第23図）

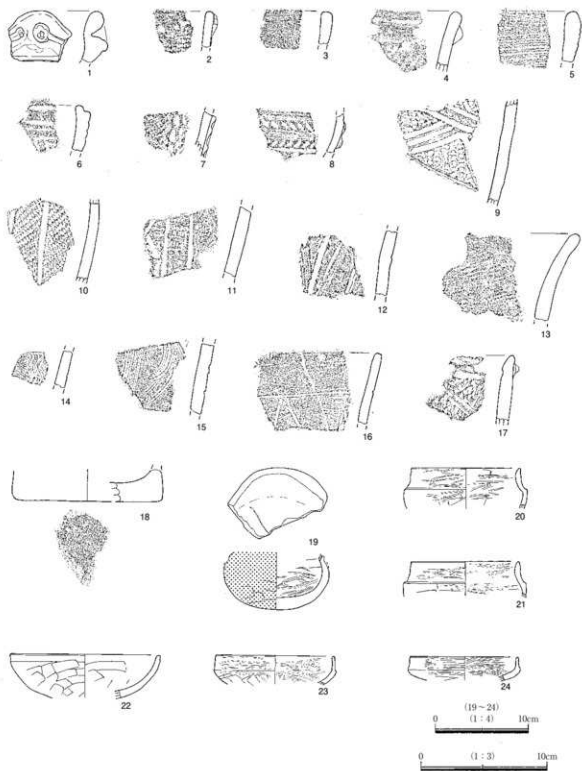
大畑遺跡は利根川と亀成川とに挟まれた東西に長い台地上に位置する。北には利根川から伸びる谷、南には急峻な崖が迫り、台地は幅が狭い。台地の標高は約24mで遺跡の北側は谷津頭となっている。今回の調査地点は遺跡中央のやや北側にあたり、同一台地上の北西には森内古墳、北東約70mには上宿遺跡と近接地には複数の終末期古墳が分布している。

第2節 調査の方法

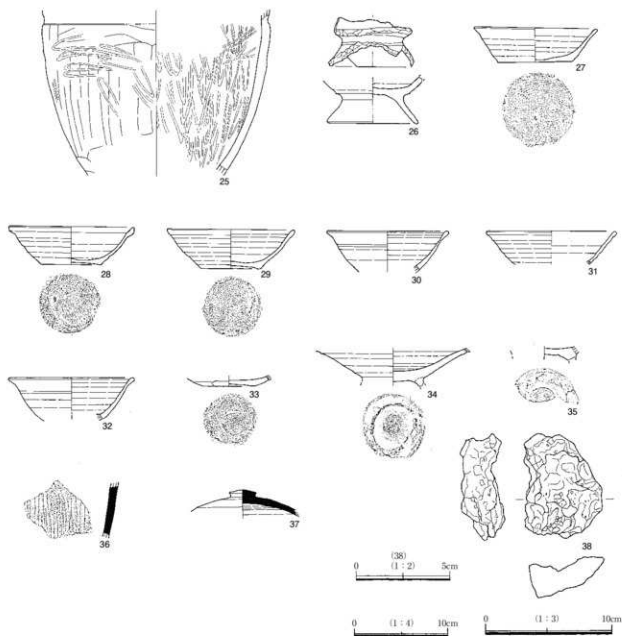
トレンチを任意に4本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺 1/100）を作成した。遺構が確認されたため10.6㎡を対象として本調査を実施した。表土を除去し、検出された住居跡の写真撮影を行った後平面図を1/20、セクション図を1/20で作成した。



第26図 瀬戸大畑遺跡（第5地点）トレンチ配置図



第27図 瀬戸大畑遺跡(第5地点)確認調査出土遺物(1)



第28図 瀬戸大畑遺跡（第5地点）確認調査出土遺物（2）

第3節 検出した遺構と遺物（第26～30図・図版6・7・10・11・12）

縄文時代土坑が1基、竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代竪穴住居跡3軒が検出され、その中の1軒が本調査対象となったが、カマド周辺の一部とピットの確認にとどまった。

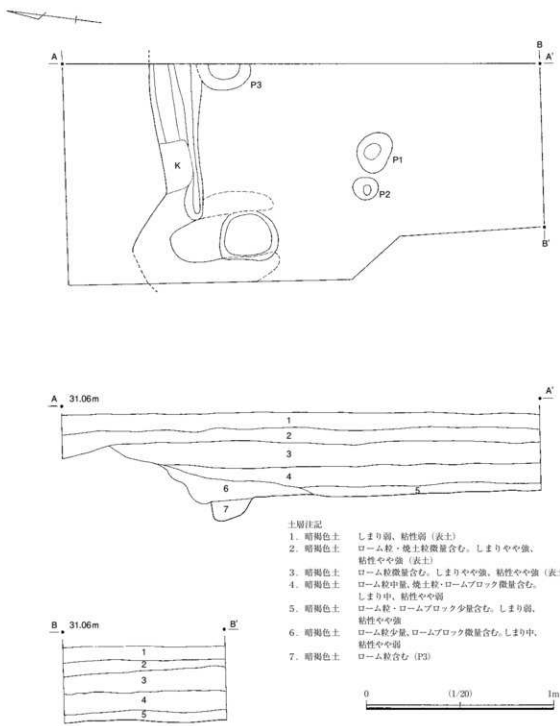
遺物は確認トレンチから縄文土器と古墳時代土師器が出土しており、第4地点同様に堀之内1式から加曾利B式までの後期の土器が主体である。また、土師器は内外面黒色処理がなされているものもみられ、6世紀後葉に捉えられる。本調査の確認調査遺物及び1号住居跡からは、8世紀末～9世紀前葉の土師器の坏と甕、その他に後期の縄文土器及び弥生時代後期の土器が出土している。

第7表 瀬戸大畑遺跡（第5地点）確認調査出土土物観察表

掲載No.	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器 深鉢	-	波状口縁。波頂部中心部分に大きめの刺突文を有する。連結する形で横位沈線を描し、端部に刺突文を加える。	透明粒子・半透明粒子多量を含む。	暗褐色	良	口縁部片 堀之内1式
2	縄文土器 深鉢	-	口唇部外面に刺突を2ヶ所加えた胎付文を有する。横位の沈線と連結する。単節LR縄文。	半透明粒子多、白色粒子少、白色針状物微量を含む。	暗褐色	良	口縁部片 堀之内1式
3	縄文土器 深鉢	-	掘削工具による波状沈線（一部円文か）。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多量を含む。	灰褐色	良	口縁部片 堀之内1式
4	縄文土器 深鉢	-	口唇部直下隆帯胎付。沈線を1条沿わせる。口縁部以下、単節LR縄文。	赤色粒子・半透明粒子少量を含む。	にぶい橙色	良	口縁部片 堀之内1式
5	縄文土器 深鉢	-	横位の浅い条線	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多、雲母粒子微量を含む。	にぶい黄褐色	良	口縁部片 堀之内1式
6	縄文土器 深鉢	-	口唇部外面に沈線1条一部、口縁部以下、沈線による幾何学文	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多量を含む。	にぶい黄褐色	良	口縁部片 堀之内1式
7	縄文土器 深鉢	-	縦位鎖状沈線。地文は単節LR縄文。	半透明粒子少量を含む。	褐色	良	胴部片 堀之内1式
8	縄文土器 深鉢	-	横位鎖状沈線。	透明粒子・半透明粒子多量を含む。	黒褐色	良	胴部片 堀之内1式
9	縄文土器 深鉢	-	縦位及び斜位沈線により幾何学状の文様を構成。地文は単節LR縄文。	赤色粒子多、半透明粒子少量を含む。	にぶい赤褐色	良	胴部片 堀之内1式
10	縄文土器 深鉢	-	縦位沈線。地文は単節LR縄文。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子少量を含む。	褐色	良	胴部片 堀之内1式
11	縄文土器 深鉢	-	斜位沈線（短沈線）。縦位沈線。地文は単節LR縄文。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多、赤色粒子少量を含む。	黒色	良	胴部片 堀之内1式
12	縄文土器 深鉢	-	多藪竹管による斜位沈線。	透明粒子少、白色粒子微量を含む。	黒色	良	胴部片 堀之内1式
13	縄文土器 深鉢	-	波状口縁。単節LR縄文。	白色粒子・半透明粒子多、赤色粒子少量を含む。	にぶい橙色	良	口縁部片 堀之内1式
14	縄文土器 深鉢	-	掘削工具による波状沈線（4条一組か）。	白色粒子・透明粒子・半透明粒子微量を含む。	にぶい褐色	良	胴部片 堀之内1式
15	縄文土器 深鉢	-	斜位沈線。弧状沈線（波状か）。	赤色粒子多、透明粒子・半透明粒子少量を含む。	にぶい褐色	良	胴部片 堀之内1式

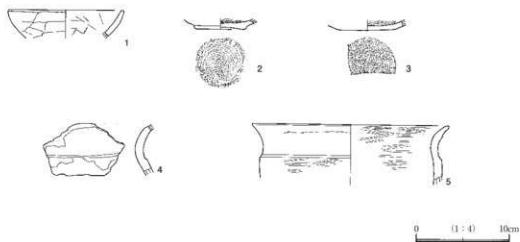
掲載No.	器種	法量(cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
16	縄文土器 深鉢	-	口縁部無文帯。胴部以下、横位沈線。山形状沈線。	半透明粒子多量を含む。	灰黄褐色	良	口縁部片 瓶之内1式
17	縄文土器 深鉢	-	口唇部外面に縦織文、内面に平載竹管による凹線。口縁部に平載竹管による斜位沈線。地文に単節LR織文。	白色粒子・赤色粒子・透明粒子・半透明粒子少量を含む。	にぶい赤褐色	良	口縁部片 加曾利B1式 粗製
18	縄文土器 深鉢 環a	器高 (2.6) 底径 (11.4)	横位のナデ	透明粒子・半透明粒子多量を含む。	にぶい赤褐色	良	底部片 1/4 遺存 後期
19	土師器 環a	器高 (6.0)	外面：ヘラケズリ後ナデ、器面が凹んでいる 内面：ヘラケズリ後ヘラミガキ、線刻あり	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多、赤色粒子微量を含む。	にぶい橙色	良	底部-体部一部 外面赤彩
20	土師器 環	口径 (11.7) 器高 (4.4)	口唇部外面：ヨコナデ後細いヘラミガキ 外面：ヘラケズリ後ヘラミガキ 口唇部内面：ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：ヘラナデ後ヘラミガキ	白色粒子・透明粒子少、白色針状物微量を含む。	灰褐色	良	口縁部片
21	土師器 環	口径 (11.6) 器高 (3.6)	口唇部外面：ヨコナデ後ヘラミガキ 外面：ヘラケズリ後ヘラミガキ 口唇部内面：ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：ヘラナデ後ヘラミガキ	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多、赤色粒子少、白色針状物微量を含む。	赤褐色	良	口縁部片 1/4 遺存
22	土師器 環	口径 (16.0) 器高 (4.6)	外面：ヘラケズリ 口縁部内外面：ヨコナデ 体部：ヘラナデ後ナデ	白色粒子・透明粒子・半透明粒子多、赤色粒子少量を含む。	にぶい橙色	良	口縁部-体部片
23	土師器 環	口径 (12.6) 器高 (3.1)	口唇部外面：ヨコナデ後ヘラミガキ 外面：ヘラケズリ後ヘラミガキ 口唇部内面：ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	雲母粒子・白色粒子少量を含む。	にぶい赤褐色 (黒地)	良	口縁部片 内外面黒色処理
24	土師器 環	口径 (11.6) 器高 (2.5)	口唇部外面：ヨコナデ後ヘラミガキ 外面：ヘラケズリ後ヘラミガキ 口唇部内面：ヨコナデ後ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	白色粒子・赤色粒子・白色針状物微量を含む。	にぶい橙色	良	口縁部片

掲載No.	器種	法量(cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
25	土師器 甕	器高 (17.4)	頸部外面：ヨコナデ 胴部外面：縦位ヘラケズリ 後粗いヘラ ミガキ 底部外面：下位横位ヘ ラケズリ 内面：ヘラミガキ	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	赤褐色	良	胴部片
26	土師器 高台付碗	器高 (4.9) 台部径 (9.7)	外面：ロクロナデ 高台部：ナデ	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	赤褐色	良	台部～環部 9世紀
27	土師器 環	口径 13.2 器高 3.65 底径 8.0	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り後未調整 下端未調整	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子微量を含む。	にぶい赤褐色	良	完形
28	土師器 環	口径 13.4 器高 4.0 底径 6.2	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り後未調整 下端未調整	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少、白色針 状物微量を含む。	明赤褐色	良	1/2 遺存
29	土師器 環	口径 (13.6) 器高 4.1 底径 6.4	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り後未調整 下端未調整	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	赤褐色	良	1/2 遺存
30	土師器 環	口径 (13.0) 器高 <4.3>	外面：ロクロナデ	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	にぶい橙色	良	口縁部片 1/3 遺存
31	土師器 環	口径 (14.0) 器高 <3.5>	内外面：ロクロナデ	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子少量を含む。	にぶい赤褐色	良	口縁部片
32	土師器 環	口径 (13.4) 器高 <4.5>	外面：ロクロナデ	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	にぶい橙色	良	口縁～体部片 4と同一か
33	土師器 環	器高 (1.2) 底径 5.4	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り後手 持ちヘラケズリ	白色粒子・赤色粒子・半透明 粒子少量を含む。	橙色	良	底部片
34	土師器 高台付環	器高 (4.0)	外面：ロクロナデ 高台部：ナデ	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、雲母粒子・赤色粒子 少量を含む。	橙色	良	底部～体部一部
35	土師器 高台付環	器高 (1.5)	外面：ロクロナデ	白色粒子・赤色粒子・透明 粒子少量を含む。	赤褐色	良	底部1/3 遺存
36	須恵器 甕	-	外面：平行タタキ 内面：ナデ	雲母粒子多、半透明粒子 少量を含む。	にぶい黄褐色	良	胴部片
37	須恵器 蓋	器高 (1.5) つまみ径 (2.8)	外面：回転ヘラケズリ	白色粒子・赤色粒子・半透明 粒子少量を含む。	灰色	良	天井部
38	輪形 洋	長さ 5.6 × 幅 5.1 × 厚さ 2.4 重量 54.4g					



- 土層注記
- 1. 暗褐色土 しまり弱、粘性弱 (表土)
 - 2. 暗褐色土 ローム粒・塊土粒微量含む。しまりやや強、粘性やや強 (表土)
 - 3. 暗褐色土 ローム粒微量含む。しまりやや強、粘性やや強 (表土)
 - 4. 暗褐色土 ローム粒中量、塊土粒・ロームブロック微量含む。しまり中、粘性やや弱
 - 5. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しまり弱、粘性やや強
 - 6. 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック微量含む。しまり中、粘性やや弱
 - 7. 暗褐色土 ローム粒含む (P3)

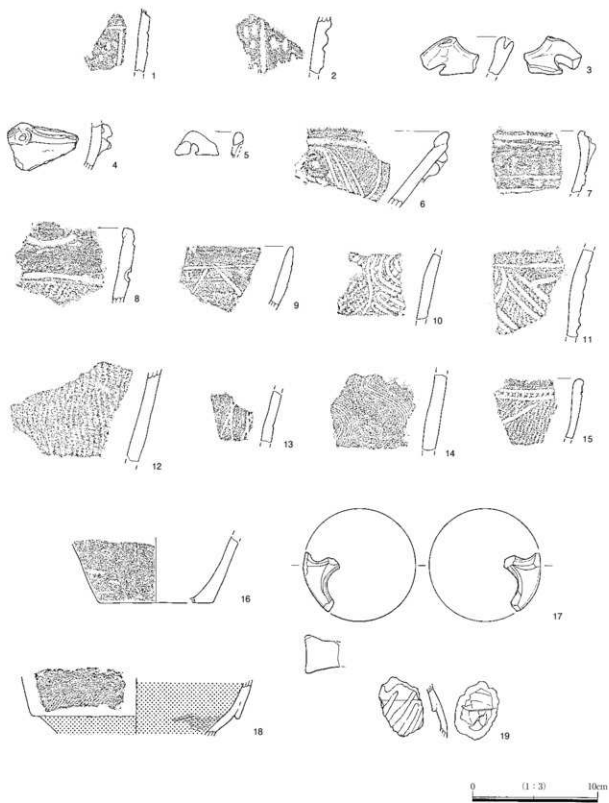
第29図 瀬戸大塚遺跡 (第5地点) 1号住居跡平面図・断面図



第30図 瀬戸大畑遺跡（第5地点）1号住居跡出土遺物

第8表 瀬戸大畑遺跡（第5地点）1号住居跡出土遺物観察表

掲載No.	器種	法量(cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	土師器 環	口径 (12.4) 器高 <3.0>	外面：ヘラケズリ後ナデ 内面：ヘラナデ後ナデ	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子微量を含む。	赤褐色	良	口縁部片
2	土師器 環	器高 <11> 底径 5.5	底部：回転糸切り後周 縁部ナデ、下端未 調整 内面：ヘラミガキ	白色粒子・透明粒子少、 赤色粒子微量を含む。	橙色	良	底部片 内面黒色処理
3	土師器 環	器高 <11> 底径 (6.0)	底部：回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ	白色粒子・赤色粒子・半透明 粒子少、白色針状物微量を含む。	にぶい橙色	良	底部片 1/3 遺存 内面黒色処理
4	土師器 甕	-	頸部ヨコナデ。胴部と の間に段を有す。	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多、赤色粒子少量を含む。	にぶい赤褐色	良	頸部片
5	土師器 甕	口径 (21.0) 器高 <6.3>	口縁部ヨコナデ・輪積 み、胴部ヘラケズリ後 ヘラミガキ、 内面：ヘラミガキ	白色粒子・赤色粒子・透明 粒子・半透明粒子多量を含む。	赤褐色	良	口縁部片



第31図 瀬戸大畑遺跡（第5地点）遺構外出土遺物

第9表 瀬戸大畑遺跡（第5地点）遺構外出土土物観察表

掲載No.	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器 深鉢	-	方角状の沈線区画内に 列点文	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	褐色色～にぶ い褐色	良	胴部片 称名寺2式
2	縄文土器 深鉢	-	縦位沈線区画内に列点文	白色粒子・半透明粒子多量 を含む。	褐色	良	胴部片 称名寺2式
3	縄文土器 浅鉢	-	波状口縁。波頂部を半円 状に折り返す。透かし 孔を有する	半透明粒子少量を含む。	黒褐色	良	口縁部片 堀之内1式
4	縄文土器 深鉢	-	頸部付尻。[8]字状貼付文。 幾何学文	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	にぶい赤褐色	良	胴部片 堀之内1式
5	縄文土器 深鉢	-	波状口縁。焼成前外側 から内側へ穿孔	白色粒子・半透明粒子少量 を含む。	にぶい褐色	良	口縁部片(小突起) 堀之内1式
6	縄文土器 浅鉢	-	波状口縁。口唇部直下 沈線1条。縞状隆帯及 び押圧を加えた貼付文。 沈線による幾何学状の 区画。区画内に単節 LR 縄文充果	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	暗褐色	良	口縁部片 堀之内1式
7	縄文土器 深鉢	-	口唇部横位沈線2条。 口縁部に無文帯を有し、 頸部に横位沈線2条。 沈線間に刺突文か	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	褐色	良	口縁部片 堀之内1式
8	縄文土器 深鉢	-	縦い波状口縁。口唇部 に弧状沈線。波頂部か ら縦位沈線か。口唇部 の横位沈線との連結部 分に押圧文。口縁部は 無文帯。胴部以下は単節 LR 縄文	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	にぶい赤褐色	良	口縁部片 堀之内1式
9	縄文土器 浅鉢	-	口唇部直下無文帯。口縁部 は横位沈線。格子状沈線	透明粒子・半透明粒子多量。 白色針状物微量を含む。	暗褐色	良	口縁部片 堀之内1式
10	縄文土器 深鉢	-	縦手状の沈線。地文は 単節 LR 縄文	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	褐色	良	胴部片 堀之内1式

掲載No.	器種	法量(cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
11	縄文土器 深鉢	-	沈線による幾何学状文。 地文は単節 LR 縄文	半透明粒子多量を含む。	紺灰色	良	胴部片 胴之内1式
12	縄文土器 深鉢	-	単節 LR 縄文	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	紺色	良	胴部片 胴之内1式
13	縄文土器 深鉢	-	格子目状沈線	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子少量を含む。	にぶい褐色	良	胴部片 胴之内1式
14	縄文土器 深鉢	-	櫛歯状工具による縦位 波状沈線 (5条1組)	雲母末多量、透明・半透明 粒子少量を含む。	紺色	良	胴部片 胴之内1式
15	縄文土器 深鉢	-	縦い波状口縁。口唇部に 指目文を沿わせる。直下 に弧状沈線。地文に単節 LR 縄文	白色粒子・半透明粒子多量 を含む。	にぶい褐色～ 黒褐色	良	口縁部片 曾谷式
16	縄文土器 深鉢	器高 <5.2> 底径 (9.2)	縦位沈線か。横位のケズリ。 底部は人為的な穿孔か	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	にぶい褐色	良	底部片 1/3 遺存 後期
17	土製品 耳飾り	推定径 9.0 厚さ 3.0	臼状を呈する。孔は4箇 所と思われる。文様は施 されていない。調整は全 面でヘラケズリ・ヘラナデ を行っている。	白色粒子・赤色粒子・透明 粒子少量を含む。	にぶい褐色	良	破片 後期か
18	弥生土器 壺	器高 <47>	複合口縁。口縁部外面、 結節縄文帯2段以上施 文。口縁部下端、LR 単 節斜縄文を施文。外面、 口縁部直下以下、およ び内面、赤影。内面ハ ケ後ナデ	白色粒子・透明粒子・半透明 粒子多量を含む。	にぶい褐色	良	口縁部弥生後 期内外面赤影
19	土師器 高坏	-	外面ヘラケズリ	白色粒子・赤色粒子少量を 含む。	にぶい褐色	良	脚部片

第12章 まとめ

東海道遺跡（第3地点）

今回が3回目の調査となった。奈良・平安時代堅穴住居跡が検出されており、平成26年に行われた第1地点、令和2年に行われた第2地点の調査でも同時代の集落が確認されたほか、縄文時代の住居跡や土器が多数出土している。今回出土した土師器・須恵器片も過去の調査を裏付けられるものであり、第2地点の調査においては縄文時代の住居跡が検出されていることから、長期間にわたって集落が継続して営まれたものと推定される。

鳴神山遺跡（第6地点・第7地点）

第6地点で奈良・平安時代住居跡が検出されており、平成25年度に行われた第1地点や第3地点の調査で奈良・平安時代の住居跡が検出されている事を裏付けられるものである。一方で、第4地点では遺構は検出されておらず、今回調査した東側に隣接する第7地点でも遺構が検出されていないことから、本遺跡における集落の展開は東寄りには存在するものと考えられる。

油免遺跡（第5地点）

今回の調査においては、トレンチは全体的に攪乱の影響を大きく受けており遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。しかし、平成14年に本調査が行われた第2地点においては縄文時代から近世にわたり堅穴住居跡19件、掘立柱建物跡2棟、堅穴状遺構2基、土坑51基、溝2条など、多数の遺構が検出されている。他の周辺の調査結果をみると、第3地点で土坑1基と土師器、小刀が出土しているのみで遺構数は多くないことから、局所的に古墳時代以降の集落が営まれていたものとみることができるとする。

グミ作遺跡（第3地点）

今回は第3地点の調査となるが、全体的に大きく攪乱の影響を受けており、遺構は検出されなかった。第1地点と平成27年に第2地点で行われた調査においても同様に、遺構は検出されていない。また、第2地点の調査では古墳時代前期とみられる土師器片が出土しているが、今回の調査では堀之内式とみられる縄文土器が初めて確認されたことから、周辺に縄文時代後期の集落が存在することをうかがわせるものである。

向新田遺跡（第5地点）

今回の調査は第5地点となり、縄文時代の住居跡のほか奈良・平安時代の住居跡が検出された。それに伴い、台付甕や器台などの遺物も出土した。令和3年度に実施された第4地点第2次～4次の調査地点は、今回の調査地点から南に約400m離れた地点に位置するが、同様に奈良・平安時代の住居跡が2軒検出され、多数の奈良・平安時代土師器・須恵器が出土した。本遺跡においては周辺にも鳴神山遺跡など、古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が多数分布していることから、今後も同時期の遺構が散発的に検出されることが予想される。

打手第1遺跡（第2地点）

調査区の中央を中心に攪乱が多く、遺構は検出されなかったが、周辺には西側に古墳時代から奈良・平安時代の山田源訪遺跡、東側に同時期の包蔵地である宮前遺跡が位置しており、今回の調査でも奈良・平安時

代土師器と中世陶磁器の小片が出土していることから、今後の調査によって遺跡の詳細が明らかになることが想定される。

安楽遺跡

今回が初めての調査となった。全体的に擾乱の影響を受けており遺構は検出されなかったが、多数の縄文土器が出土した。加曽利E式を中心に中期から後期にかけてのものであり、本遺跡の台地周辺には該期の遺構の存在がうかがわれる。

瀬戸大畑遺跡（第4地点・第5地点）

第4地点では遺構は検出されなかったが、第5地点は住居跡が検出されたため本調査まで行われ、縄文土器をはじめ奈良・平安時代の遺物が多数出土した。本遺跡では平成25年度の第1地点の調査においては縄文時代後期の竪穴住居跡2軒が検出されたほか、古墳時代竪穴住居跡が10軒検出されている。さらに、第2地点においても古墳時代住居跡12軒のほか奈良・平安時代住居跡6軒など多数の遺構が検出されており、本遺跡の中心に近い範囲には古墳時代以降の集落が展開しているものとみられる。

参考文献

- (財)印旛郡市文化財センター 2004 『油免遺跡(第二地点)』
印西市教育委員会 2015 『平成25年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』
印西市教育委員会 2016 『平成26年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』
印西市教育委員会 2017 『平成27年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』
印西市教育委員会 2022 『令和2年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』
印西市教育委員会 2023 『令和3年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』

写 真 图 版



東海道遺跡（第3地点） 調査前風景（南西から）



1トレンチ（南から）



2トレンチ（南から）



3トレンチ（南から）



5トレンチ（南から）



7トレンチ（東から）



8トレンチ（東から）



鳴神山遺跡（第6地点） 1トレンチ（東から）



2トレンチ (東から)



3トレンチ (東から)



4トレンチ (東から)



5トレンチ (東から)



6トレンチ (東から)



8トレンチ (北から)



10トレンチ (東から)



油免遺跡 (第5地点) 調査前風景 (南西から)



1 トレンチ (北から)



2 トレンチ (北から)



4 トレンチ (西から)



5 トレンチ (西から)



6 トレンチ (西から)



ゴミ作道跡 (第3地点) 調査前風景 (北東から)



1 トレンチ (北から)



2 トレンチ (北から)



鳴神山遺跡（第7地点）1トレンチ（東から）



4トレンチ（東から）



2トレンチ（東から）



5トレンチ（東から）



鳴神山遺跡（第7地点）調査前風景（南から）



1トレンチ（南西から）



2トレンチ（南西から）



6トレンチ（南西から）



7トレンチ (南西から)



19トレンチ (南西から)



20トレンチ (北西から)



打手第1遺跡 (第2地点) 2トレンチ (南東から)



3トレンチ (北西から)



4トレンチ (北西から)



7トレンチ (南西から)



安楽遺跡 4トレンチ (南東から)



2 トレンチ (北西から)



3 トレンチ (北西から)



瀬戸大畑道跡 (第4地点) 3 トレンチ (西から)



1 トレンチ (西から)



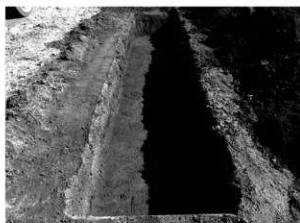
2 トレンチ (西から)



4 トレンチ (西から)



瀬戸大畑道跡 (第5地点) 調査前風景 (北から)



1 トレンチ (西から)



2トレンチ (西から)



4トレンチ (南から)



瀬戸大畑遺跡 (第5地点) 本調査重機掘削状況



調査区状況 (西から)



調査区状況 (南から)



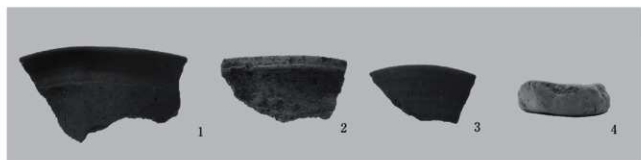
調査風景 (北から)



1号住居跡 (南から)



本調査終了風景 (北から)



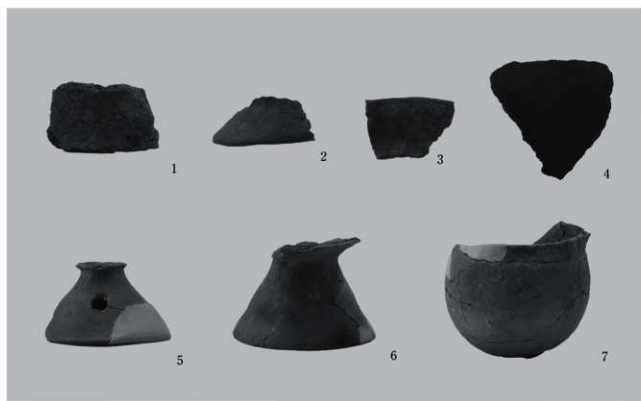
東海道遺跡（第3地点）出土遺物



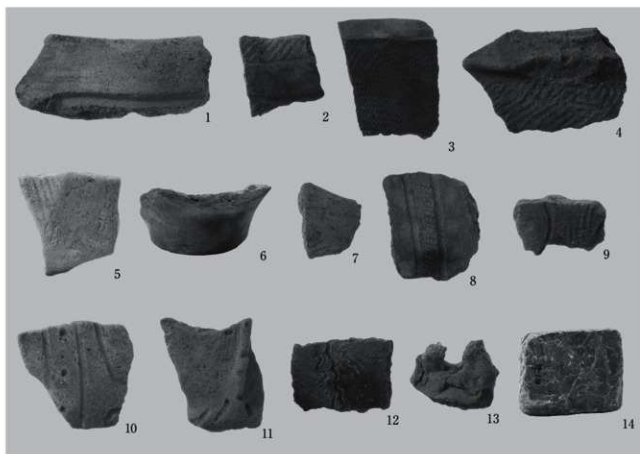
鳴神山遺跡（第6地点）出土遺物



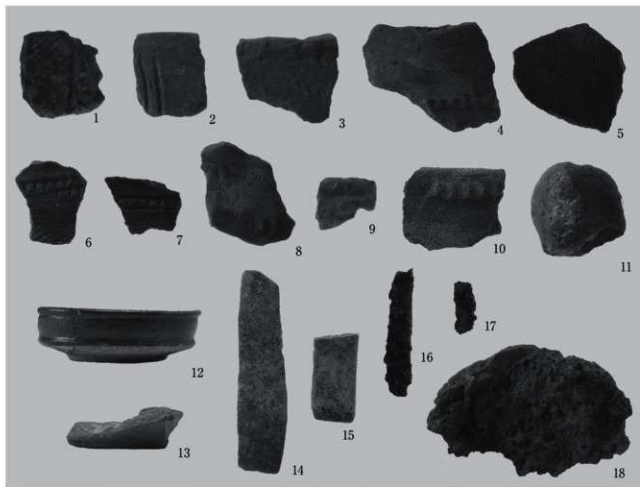
グミ作遺跡（第3地点）出土遺物



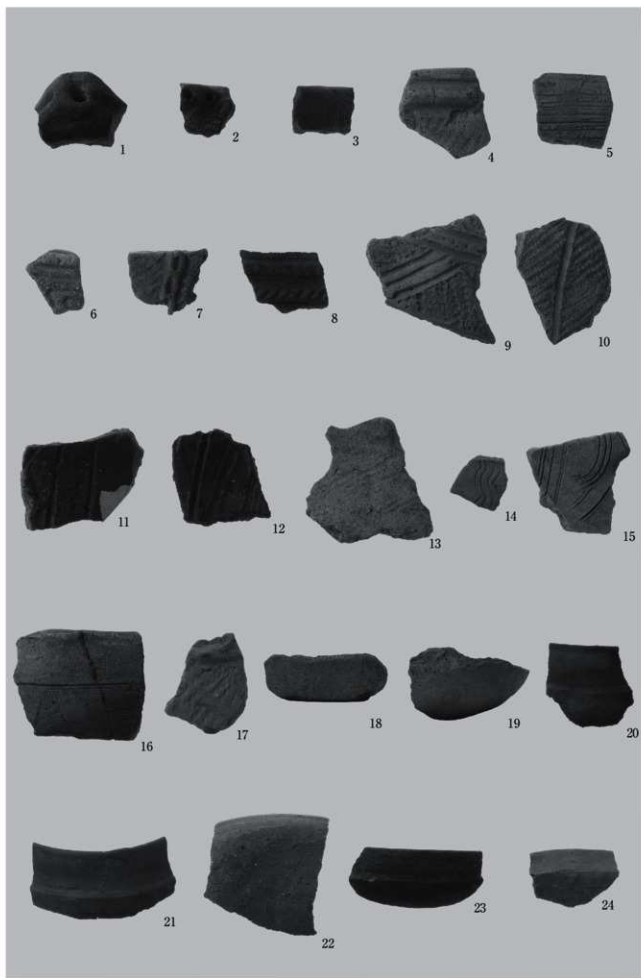
向新田遺跡（第5地点）出土遺物



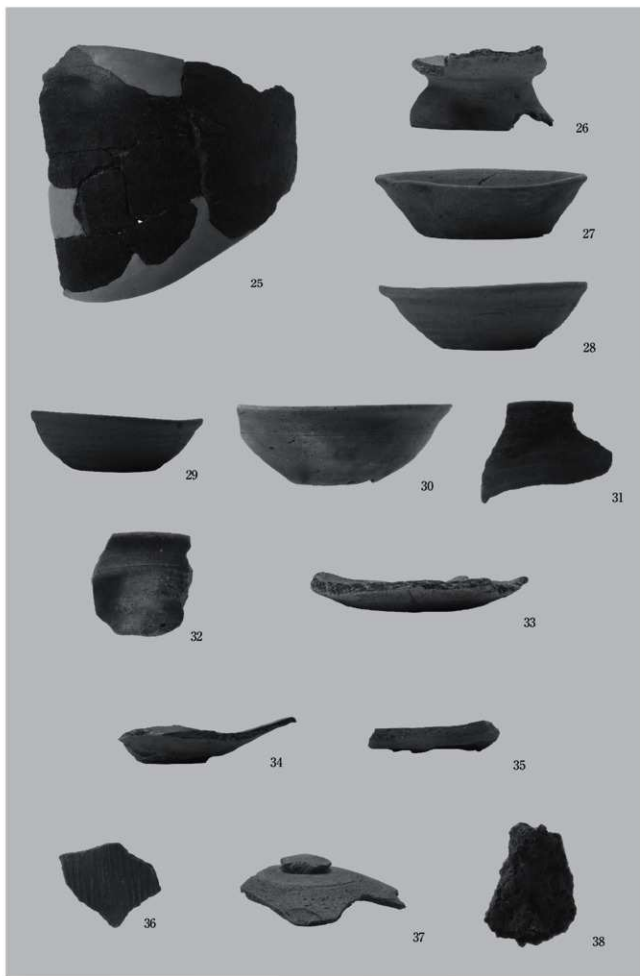
安楽遺跡 出土遺物



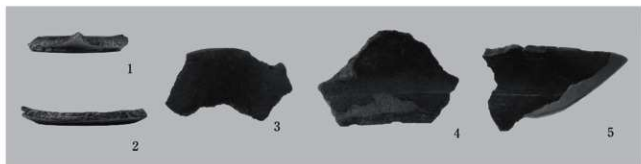
瀬戸大畑遺跡(第4地点) 出土遺物



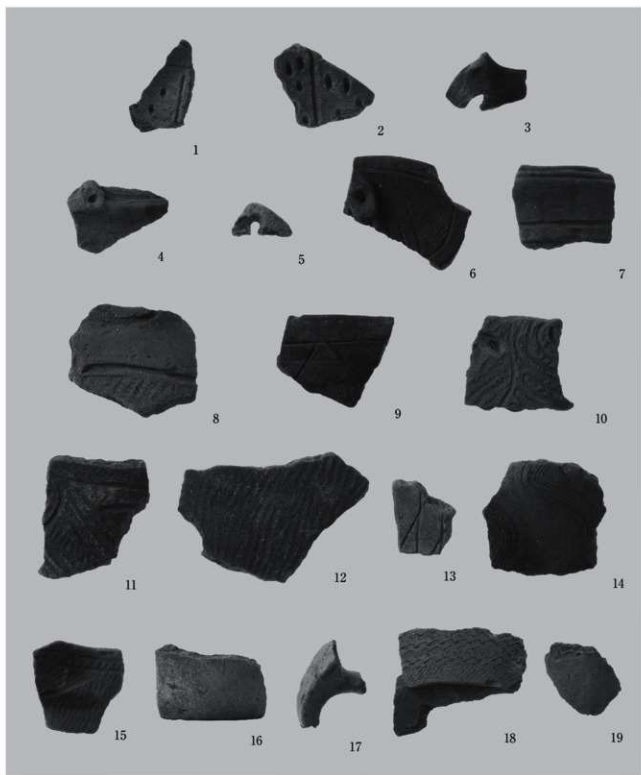
瀬戸大畑遺跡(第5地点)トレンチ(確認調査)出土遺物(1)



瀬戸大畑遺跡(第5地点)トレンチ(確認調査) 出土遺物(2)



瀬戸大畑遺跡(第5地点) 1号住居跡出土遺物



瀬戸大畑遺跡(第5地点) 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな														
語名	令和4年度伊西市内遺跡発掘調査報告書													
編集者名	大村 冬樹													
編集機関	伊西市教育委員会 教育部 生涯学習課													
所在地	〒270-1386 伊西市大森2364-2 TEL:0476-33-4714													
発行年月日	西暦 2024年3月18日													
ふりがな	ふりがな	コ	ー	ド	北	東	経	緯	調査期間	調査面積	調査原因			
所収遺跡名	所在地	市	町	村	遺跡番号									
とうかいどういせき(だい3ちてん)	いんざいしまつぎみあざとうかいどう 13328、1332-10		122319		09-167	35°46'30"	140°8'30"		令和4年4月11日	確認調査 上層 58.5m ² / 360.6m ²	個人住宅 建設に伴う 確認調査			
東海遺跡(第3地点)	伊西市松崎字東海遺 13328、1332-10													
なるかみやまいせき(だい4ちてん)	いんざいしとから625ばん1のいちふ		122319		09-168	35°47'32"	140°77'		令和4年4月18日	確認調査 上層 50.75m ² / 499.0m ²	集合住宅 建設に伴う 確認調査			
鳴神山遺跡(第6地点)	伊西市戸部 625番1の一部													
あふらめいせき(だい3ちてん)	いんざいしよなかあざあふらめい 1238ばん1のいちふ		122319		09-169	35°46'36"	140°12'17"		令和4年4月22日	確認調査 上層 46.5m ² / 497.57m ²	個人住宅 建設に伴う 確認調査			
油免遺跡(第5地点)	伊西市柳屋字油免 1238番1の一部													
てみきくいせき(だい3ちてん)	いんざいしせとあざおほけい 535ばん29		122319		09-170	35°47'02"	140°74'57"		令和4年5月10日	確認調査 上層 31.5m ² / 298m ²	個人住宅 建設に伴う 確認調査			
グミ作遺跡(第3地点)	伊西市瀬戸字大木台 535番29													
なるかみやまいせき(だい4ちてん)	いんざいしとからあざきたののうち 1046ばんのいちふ		122319		09-171	35°47'31"	140°79'		令和4年6月2日	確認調査 上層 50.2m ² / 493.8m ²	店舗建設 に伴う確認 調査			
鳴神山遺跡(第7地点)	伊西市戸部字北ノ内 1046番の一部													
むかいしんでんいせき(だい3ちてん)	いんざいしむさいあざこうつか 1271ばん111か		122319		09-172	35°47'15"	140°63'39"		令和4年6月28日・ 令和4年7月7日	確認調査 上層 41.3m ² / 5224.35m ²	宅地造成 に伴う確認 調査			
向新田遺跡(第5地点)	伊西市武西字康屋 1271番1集													
うちてだいいせき(だい2ちてん)	いんざいしよまた 3585-111か		122319		09-173	35°46'17"	140°13'57"		令和4年8月25日	確認調査 上層 54.6m ² / 540m ²	太陽光発 電施設建設 に伴う確認 調査			
打手第1遺跡(第2地点)	伊西市山田 3585-1集													
あんないせき	いんざいしべつよあざあんなら 333ばん211か		122319		09-174	35°49'9"	140°9'20"		令和4年8月30日	確認調査 上層 51.1m ² / 508m ²	個人住宅 建設に伴う 確認調査			
安楽遺跡	伊西市別所字安楽 333番2集													
せとおおげたいせき(だい4ちてん)	いんざいしせとあざみやひく1100ばん		122319		09-175	35°46'23"	140°12'56"		令和4年10月24日	確認調査 上層 98m ² / 919m ²	太陽光発 電施設建設 に伴う確認 調査			
瀬戸大畑遺跡(第4地点)	伊西市瀬戸字宮作 1100番													
せとおおげたいせき(だい4ちてん)	いんざいしせとあざおおげたい 1135ばんのいちふ		122319		09-176	35°46'22"	140°12'57"		確認調査 令和4年10月26日 本調査 令和4年11月28日・ 令和4年12月5日	確認調査 上層 44m ² / 299.15m ² 本調査 10.6m ²	個人住宅 建設に伴う 確認調査			
瀬戸大畑遺跡(第5地点)	伊西市瀬戸字大畑 1135番の一部													
所収遺跡名	種別	主	女	時	代	主	女	遺	物	特記事項				
東海遺跡(第3地点)	包蔵地	奈良	平安	時代	奈良・平安時代邪智住居跡3軒・土坑5基、中近世遺1基	奈良	平安	時代土師器・須恵器		特になし				
鳴神山遺跡(第6地点)	包蔵地	旧石器	奈良	平安	時代	奈良・平安時代邪智住居跡1軒	奈良	平安	時代土師器	特になし				
油免遺跡(第5地点)	包蔵地	奈良	平安	時代	なし	奈良	平安	時代土師器・須恵器		特になし				
グミ作遺跡(第3地点)	包蔵地	縄文	時代	弥生	時代	古墳	時代	奈良	平安	時代	縄文土器、奈良・平安時代土師器	特になし		
鳴神山遺跡(第7地点)	包蔵地	旧石器	奈良	平安	時代	なし	奈良	平安	時代土師器・須恵器		特になし			
向新田遺跡(第5地点)	集落跡	縄文	時代	弥生	時代	古墳	時代	縄文	土器	古墳	時代土師器	特になし		
打手第1遺跡(第2地点)	集落跡	古墳	時代	奈良	時代	平安	時代	なし	奈良	平安	時代土師器	中世陶磁器	特になし	
安楽遺跡	包蔵地	縄文	時代	なし	縄文土器						特になし			
瀬戸大畑遺跡(第4地点)	包蔵地	縄文	時代	古墳	時代	奈良	平安	時代	なし	縄文土器		特になし		
瀬戸大畑遺跡(第5地点)	包蔵地	縄文	時代	古墳	時代	奈良	平安	時代	縄文	土器	奈良	平安	時代土師器	特になし

令和4年度
印西市内遺跡発掘調査報告書

令和6年3月10日 印刷
令和6年3月18日 発行

編集 公益財団法人印旛都市文化財センター
千葉県佐倉市春路1丁目番地4
発行 印西市教育委員会
千葉県印西市大森2364-2
印刷 三陽メディア株式会社
千葉県中央区浜野町1397

